

嘘の慰安婦像設置、韓国人が先頭に立って止めます。

6月25~7月1日、私たちはドイツへ行きます。

ドイツのベルリン市ミッテ区は、ユニオン公園に設置されている慰安婦像(いわゆる「平和の少女像」)の未来を今年9月28日までに決めなければなりません。原則通りなら設置することもできなかったはずですし、今からでも撤去しなければなりません。像を設置した「コリアン協議会」と彼らを支援するドイツ市民団体は永久存続のために総力を傾けており、ミッテ区議会にも彼らを支持する区議員が多いそうです。この像がどうなるか今のところ分からないのが実情です。

この慰安婦像を見たベルリン市民の多くは、日本軍が20万人の朝鮮人「少女」を強制連行して性奴隷にしたと誤解しています。私たちは朝鮮人慰安婦とは「25才前後の数千人の女性が業者と契約を結び軍人に性サービスを提供した性労働者」だったという事実をドイツ人に知らせるつもりです。この像を作った「作家」は13歳の自分の娘をモデルにしたといいます。慰安婦の年齢を半分にしたのです。慰安像は「平和の少女像」ではなく「嘘の慰安婦像」と呼ぶべきです。歴史を歪曲する像はベルリンに立ってはいならず、撤去すべきだと主張するつもりです。

アメリカの例からも分かるように、慰安婦像は設置しやすいのですが、撤去させるのはとても難しいです。もう一つ立てるのも難しくないし、その数を増やすのははるかに簡単です。ミッテ区の慰安婦像を放置すれば、嘘の慰安婦像はドイツ各地、ヨーロッパ全域に広がっていきます。今止めなければなりません。

ベルリンで私たちは毎日「嘘の慰安婦像」の前で撤去要求デモを行います。また、外信記者会見、コリア協議会との懇談会、在ドイツ韓人会との懇談会を計画しており、ミッテ区長と区議会議員との面談も推進しています。

今回の私「反日銅像の真相究明のための共同対策委員会」共同代表李宇衍のドイツ行きには、「オンマ部隊」の朱玉順代表、「慰安婦法廃止国民行動」の金柄憲所長らが同行します。

私は2020年10月、コリア協議会と挺対協=正義記憶連帯がこの慰安婦像を設置したその日、ドイツに行って抗議して設置中止を主張しようとしたのですが、当時は新型コロナウイルス感染症により外交官以外はドイツに入国できず、あきらめるしかありませんでした。今は入国できるようになったので、嘘の慰安婦像の運命がもうすぐ決まる状況になったドイツに行きます。

皆様のご関心とご支援をお願いいたします。

反日銅像の真相究明のための共同対策委員会 李宇衍(イ・ウヨン)